

中野市埋蔵文化財発掘調査報告書

栗和田 3 号古墳

1996. 3

長野県中野市教育委員会

中野市埋蔵文化財発掘調査報告書

栗和田 3 号古墳

1996. 3

長野県中野市教育委員会

刊行にあたって

本調査報告書は栗和田3号古墳とされてきた埋蔵文化財の調査報告書である。栗和田3号古墳はこれまで古墳と考えられてきたが、調査の結果、古墳ではなく、中世の山城に関係した遺構であると推測されるにいたった。古墳でなかったことは残念であったが、中野市の歴史に新たな知見を加えることができたと考えます。本報告書が多くの方々に活用され、市民の皆様の研究や学習の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力をいただいた地元の皆様をはじめ関係各位に御礼を申し上げます。

平成8年3月

中野市教育委員会教育長 小林治己

例 言

本調査報告書は（株）北信探石の委託を受けて、中野市教育委員会が実施した栗和田3号古墳の発掘調査報告書である。

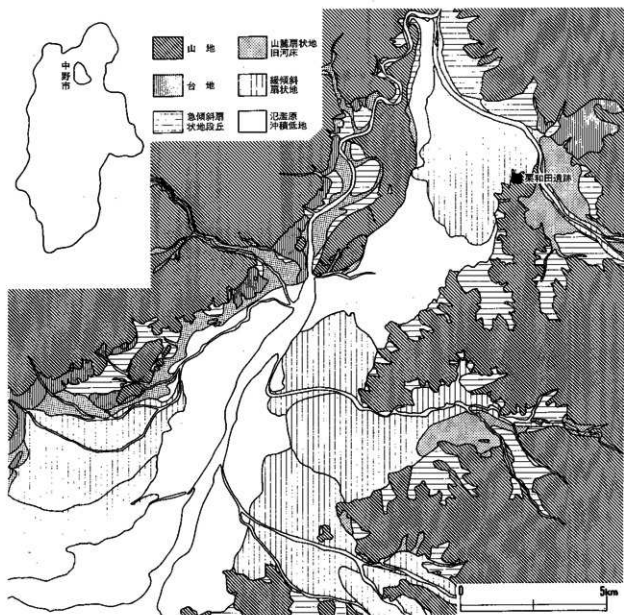
発掘調査は中野市学芸員と池田実男が中心となつてすすめた。

調査

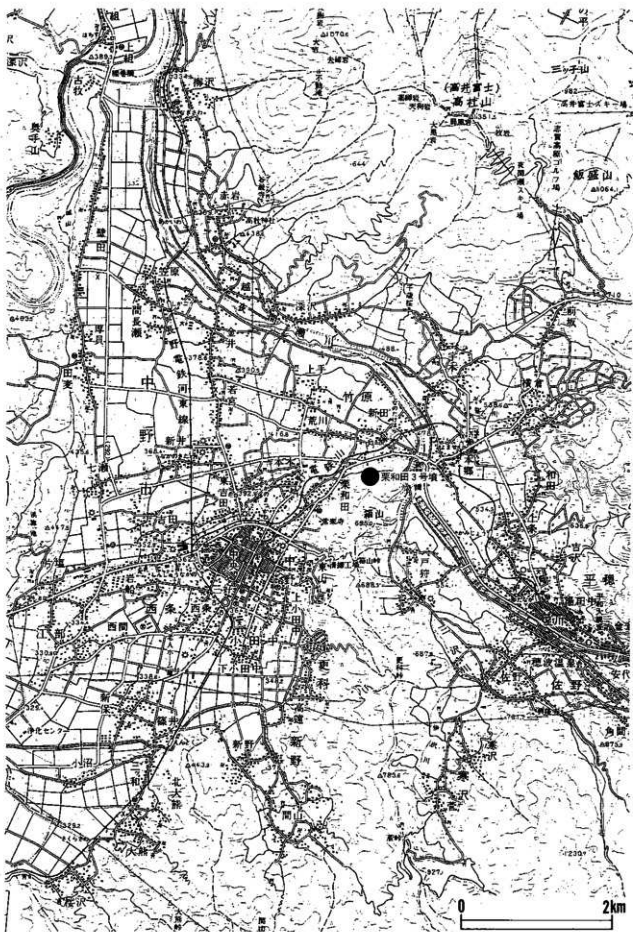
栗和田3号古墳は長野県中野市栗和小袖地籍に所在する。中野市は長野盆地の最北端に位置し、栗和田地籍は長野盆地の東を画する河東山地の裾部に位置する。

河東山地から、北西に向かって延びる支脈の一つに箱山がある。さらに箱山から二つの尾根が分岐して延びるが、古墳は箱山から北方へ延びる尾根の先端部付近に立地する。庄山の尾根には栗和田1、2

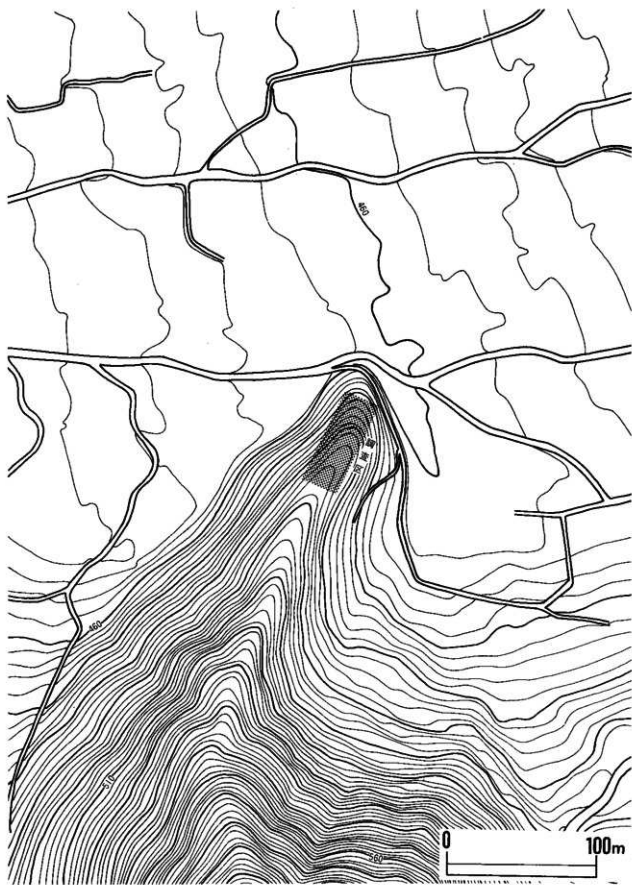
号古墳、小袖の尾根には栗和田3号古墳、紫岩の山稜に紫岩古墳が存在するとされ、「小袖所在の3号古墳は、円墳で直径約6メートル、高さ約0.6メートルである。盛り土はほとんど取り除かれており、箱式石廂とみられる石室が、長軸が南北に約2メートル・巾約0.9メートルにわたって露出している。盛り土はしたがって現状よりも1メートル前後高かったと推測される。また、すぐとなりにも古墳と見られる遺構が、破壊され露出しているが、形態の確認は困難であった」とされている(中野市誌)。



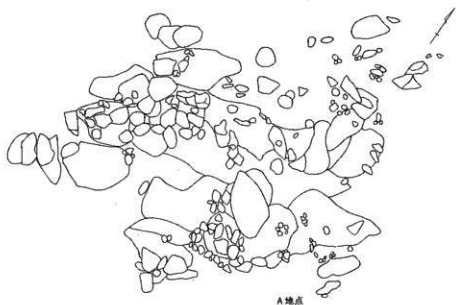
1 図 遺跡の位置 (その1)



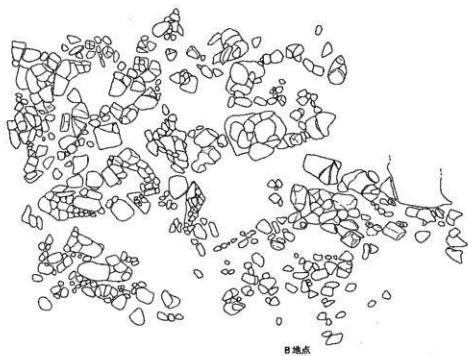
2図 遺跡の位置 (その2)



3图 調查区



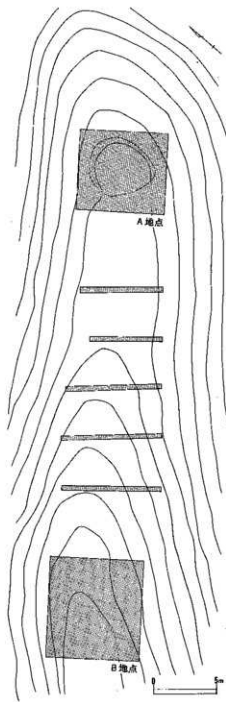
A地点



B地点



4図 集石群



6図 調査区

平成4年、この古墳が所在する小袖の尾根を含めた箱山の裾部で、岩石採取の計画が(株)北信採石によって計画された。箱山の山頂部には中世の山城があり、小袖の尾根には古墳が存在することから、中野市と北信採石はこれらの埋蔵文化財の保存について慎重に検討した。山頂部についてはその景観を

極力壊さずに岩石採取を行うこと、小袖の尾根にある古墳については事前調査を実施することで、保護協議が成立した。

調査は中野市教育委員会が担当し、平成6年4月より6月まで、発掘調査を実施した。

調査は北信採石の協力を得て、木立を伐採し、表面の落ち葉や腐葉土を取り除き、現状の墳丘を確認することからはじめた。この確認は栗和田3号古墳、及びそれに隣接し破壊されていると記されている古墳も含めて行ったが、両古墳の墳丘は明確に確認されなかった。3号古墳の頂には大きな岩が露出し、長方形を呈するように見えたが、遺物はほとんど採集できなかった。そこで、トレンチを設定し、墳丘部の断面を観察した後、全面を掘り下げて調査した。

こうして、慎重に調査したが、何れも古墳ではないと判断された。墳丘のような高まりを見せていたのは、尾根地形の基盤を形成する岩盤が突きだしたものであった。

ただし、3号墳と呼ばれていた部分の覆土中には炭化物の集中している部分が認められ、何らかの人為的な行為が執り行われた可能性はある。また、中世土師器の皿形土器が出土している。おそらく、中世山城に関連する何らかの行為が行われたのではないかと推測する。

栗和田遺跡発掘調査報告書

印 刷 平成 8 年 3 月 25 日
発 行 日 平成 8 年 3 月 25 日
編 集 ・ 発 行 中野市教育委員会
中野市三好町 1 - 3 - 19
印 刷 所 萬友印刷株式会社

